

201029020A

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV検査相談体制の充実と 活用に関する研究

平成22年度研究報告書

研究代表者

加藤真吾

(慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室)

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究

平成22年度 研究報告書

研究代表者

加藤 真吾

(慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室)

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(研究代表者・研究分担者) 平成22年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
加藤 真吾	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室	専任講師	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211 (61230)	03-5361-7658	skato@sc.itc.keio.ac.jp
井戸田 一朗	しらかば診療所	院長	162-0065	東京都新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	itoda@shirakaba-clinic.jp
今井 光信	田園調布学園大学 人間福祉学部	教授	215-8542	神奈川県川崎市 麻生区東百合丘3-4-1	044-966-6800	044-955-4345	imaim@d2.dion.ne.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	537-0025	大阪市東成区中道1-3-69	06-6972-1321 (375)	06-6972-2393	kawahata@iph.pref.osaka.jp
木村 和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系 国際保健薬学研究室	教授	920-1192	金沢市角間町 自然科学本館	076-234-4402	076-234-4402	kimurak@p.kanazawa-u.ac.jp
小島 弘敬	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122	03-3377-0821	hiv-test@aurora.ocn.ne.jp
近藤真規子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	kondo.dvqy@pref.kanagawa.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	専門副参事	169-0073	新宿区百人町3-24-1	03-3363-3231	03-3363-3263	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
佐野 貴子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	takawoo@hotmail.com
杉浦 亙	(独)国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター	部長	461-0001	名古屋市中区三の丸4-1-1	052-952-1111	052-951-0664	wsugiura@nih.go.jp
武部 豊	国立感染症研究所 エイズ研究センター第2室	室長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111 (2537)	03-5285-1258	takebe@nih.go.jp
玉城 英彦	北海道大学大学院医学研究科 国際保健医学分野	教授	060-8638	札幌市北区北15条西7丁目	011-706-5051	011-706-7374	tamashi@med.hokudai.ac.jp
中瀬 克己	岡山市保健所	所長	700-8546	岡山市鹿田町1-1-1	086-803-1262	086-803-1758	katsumi_nakase@city.okayama.okayama.jp
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主任研究員	060-0819	札幌市北区北19条西12丁目	011-747-2764	011-736-9476	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
日野 学	日本赤十字社 血液事業本部	副本部長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	s-hino@bs.jrc.or.jp
前田 憲昭	医療法人社団歯会	理事長	530-0017	大阪市北区角田町8-47 阪急グランフロントビル22階	06-6315-7500	06-6315-1930	koshikai@silver.ocn.ne.jp
矢永由里子	(財)エイズ予防財団 研修研究部	課長	105-0001	千代田区三崎町1-3-12 水道橋ビル5階	03-5259-1811	03-5259-1812	yanaga@fap.or.jp

HIV検査相談体制研究班事務局 <慶応義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室>

〒160-8582 新宿区信濃町35 TEL: 03-3353-1211 FAX: 03-5361-7658

事務担当(内線61230): 山本晶子、平山由香利 (kensahan@m10.alpha-net.ne.jp) 経理担当(内線64021): 光永明弘

研究担当(内線61230): 須藤弘二 (phai@mail7.alpha-net.ne.jp)、親泊あいみ

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談体制の充実と活用に関する研究班 班員名簿(地方衛生研究所)平成22年度

班員名	所属	職名	電話(内線)	FAX	所属	研究担当者	Eメール
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主任研究員	011-747-2764	011-736-9476	微生物部 ウイルス科	長野秀樹 駒込理佳 井上真紀	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
広島紀以子	仙台市衛生研究所	所長	022-236-7722 022-236-7737	022-236-8601	微生物課	勝見正道	fuk005620@city.sendai.jp
原 孝	茨城県衛生研究所	部長	029-241-7601	029-243-9550	微生物部	原 孝 増子京子	t.hara@pref.ibaraki.lg.jp
篠崎 邦子	千葉県衛生研究所	室長	043-266-6725	043-265-5544	ウイルス研究室	福嶋得忍 岡田峰幸	k.shnz4@mb.pref.chiba.jp
内田 和江	埼玉県衛生研究所	専門研究員	048-853-5034	048-840-1041	ウイルス担当	篠原美千代 内田和江 島田慎一	uchida.kazue@pref.saitama.lg.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	病原細菌 研究科長	03-3363-3231 (3201)	03-3363-3263	微生物部 ウイルス研究科	新開敬行 長島真美	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
近藤真規子	神奈川県衛生研究所	主任研究員	0467-83-4400	0467-83-4457	微生物部	近藤真規子 佐野貴子	kondo.dvqy@pref.kanagawa.jp
宇宿 秀三	横浜市衛生研究所	専門研究員	045-754-9800	045-754-2210	検査研究課	野口有三 宇宿秀三 林 宏子	yu00-noguchi@city.yokohama.jp sh00-usuku@city.yokohama.jp
飯塚 郁夫	川崎市衛生研究所	技術職員	044-244-5481	044-246-2606	微生物担当	平山 春香	35eiken@city.kawasaki.jp
水谷 均	山梨県衛生公害研究所	所長	055-253-6721	055-253-5637	微生物部	浅川洋美 三橋加世子	asakawa-thh@pref.yamanashi.lg.jp
皆川 洋子	愛知県衛生研究所	所 長	052-910-5604	052-913-3641	生物学部 ウイルス研究室	小林慎一 藤原範子	hiroko_minagawa@pref.aichi.lg.jp eiseiken@pref.aichi.lg.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	06-6972-1321 (376)	06-6972-2393	感染症部 ウイルス課	森 治代 小島洋子	kawahata@iph.pref.osaka.jp
近平 雅嗣	兵庫県立健康生活科学研究研究所 健康科学研究センター	感染症部長	078-511-6804	078-531-7080	感染症部	高井伝仕	Denshi_Takai01@pref.hyogo.lg.jp Masatsugu_Chikahira@pref.hyogo.lg.jp
伊藤 文明	広島市衛生研究所	専門員	082-277-6998	082-277-0410	生物科学部 ウイルス担当	伊藤文明 阿部勝彦 山本美和子	ei-seibutsu@city.hiroshima.jp
山下 育孝	愛媛県立衛生環境研究所	ウイルス科長	089-931-8757	089-947-1262	微生物試験室	山下 育孝 青木紀子	yamashita-yasutaka@pref.ehime.jp
千々和勝己	福岡県保健環境研究所	保健科学部長 兼ウイルス課 長	092-921-9945	092-928-1203	ウイルス課	世良暢之 石橋哲也 古富秀亮	chijiwa@fihes.pref.fukuoka.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別協力研究者) 平成22年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
高山 義浩	佐久総合病院総合診療科 厚生労働省健康局結核感染症課	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	hiro-t@urmin.net
小池 宙	佐久総合病院 総合診療科	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	koike-h@urmin.ac.jp
百瀬 俊也	日本赤十字社 血液事業本部	安全管理課長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	momose@bs.jrc.or.jp
本間 隆之	金沢大学医薬保健研究域	助教	920-1192	金沢市角間町金沢大学 自然科学一号楼1B636	076-264-6286	076-264-6286	thomma@p.kanazawa-u.ac.jp
相楽 裕子	横浜市民病院 感染症内科	非常勤	240-8555	横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961	045-331-1960	hsagara@msf.biglobe.ne.jp
岩室 紳也	(社)地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター	センター長	102-0093	千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15F	03-5210-2921	03-5210-2924	shin.iwamura@nifty.ne.jp
伊藤 章	国際医療福祉大学病院 臨床検査部	教授	329-2763	栃木県那須塩原市井口537-3	0287-39-3060	0287-39-3001	aito@iuhw.ac.jp
大林 民典	東京都立駒込病院 臨床検査科	部長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	03-5814-3366	tami@cick.jp
小泉 京子	江戸川区健康サービス課 なごさ健康サポートセンター	保健師	134-0085	江戸川区南葛西7-1-27	03-5675-2515	03-5675-2519	kyouko-koizumi@city.edogawa.tokyo.jp
清水 茂徳	ライフ・エイズ・プロジェクト	代表	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	shimizu8691@lap.jp
草田 央	ライフ・エイズ・プロジェクト	スタッフ	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	aids@t3.rim.or.jp
堀 成美	東京都立駒込病院 感染症科 国立感染症研究所FETP	研究員	162-8640	新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所	03-5285-1111	03-5285-1233	hmarumi@nih.go.jp
潮見重毅	栃木県健康福祉センター	所長	323-0811	小山市犬塚3-1-1	0285-22-0302	0285-22-8403	shiomis01@pref.tochigi.jp
右田麻里子	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	栄サウンサイト 事務局代表	466-0833	名古屋市昭和区隼人町7-16 セントカース50-B	052-831-2290	052-831-2268	chubu@npo-jhc.com
今井 敏幸	財団法人エイズ予防財団 エイズ対策 戦略研究推進室	流動研究員	105-0001	千代田区三崎町1-3-12 水道橋ビル5階	03-5259-1811	03-5259-1812	imai@fap.or.jp
狩野千草	新宿区牛込保健センター	保健師	162-6231	新宿区弁天町50番地	03-3260-6231	03-3260-6223	chigusa.kano@city.shinjuku.tokyo.jp
川添 昌之	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	理事 なんばサウンサイト 事務局責任者	651-0088	神戸市中央区小野柄通6-1-22 ブチメゾン小川 201号	078-222-3001	078-222-3001	osaka-vct@npo-jhc.com
高田知恵子	秋田大学教育文化学部心理学研究室	教授	010-8502	秋田市手形学園町1-1	018-889-2537	018-889-2537	takata@ed.akita-u.ac.jp

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
塚田 三夫	栃木県保健福祉部健康増進課	課長補佐	320-8501	栃木県宇都宮市埴田1-1-20 保健福祉部健康増進課	028-623-3096	028-623-3920	tsukadam01@pref.tochigi.lg.jp
松浦 基夫	特定非営利活動法人 CHARM	理事	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com matsuura-m@sakai-hospital.jp
岳中 美江	特定非営利活動法人 CHARM エイズ予防財団	理事 流動研究員	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com
辻麻理子	国立病院機構九州医療センター 感染症対策室	臨床心理士	810-8563	福岡市中央区地行浜1-8-1	092-852-0700	092-847-8801	cptsujimari@kyumed.jp
星野慎二	かながわレインボーセンター-SHIP (横浜Cruiseネットワーク)	代 表	221-0834	横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2F	045-306-6769	045-306-6769	shinji@y-cru.com
市川 誠一	名古屋市立大学大学院看護学研究科	教授	467-8601	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	052-853-8089	052-852-4641	yaichisei@yahoo.co.jp
浦尾 充子	千葉大学附属病院カウンセリング室	カウンセラー	260-0856	千葉市中央区亥鼻1-8-1	043-226-2383	043-226-2295	urao@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
鬼塚 直樹	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 エイズ予防研究センター	専門官	94105	50 Beale Street, Suite 1200, San Francisco, CA USA	415-597-9375	415-597-8299	nonizuka@webjapan.us
橘 とも子	国立保健医療科学院 研究情報センター	情報デザイン室長 (兼)研究情報セン ター図書館サービ ス室長事務取扱	351-0197	埼玉県和光市南2-3-6	048-458-6206	048-469-0326	ttomoko@niph.go.jp
澤畑 一樹	㈱三菱化学メデイエンス 学術部	主事	174-8555	板橋区志村3丁目30番1号	03-5994-2196	03-5994-2931	sawahata-o@mui.biglobe.ne.jp
檀 佐和子	㈱エスアールエル 感染免疫部	部長	192-8535	八王子市小宮町51	0426-28-4083	0426-48-4041	enoki@srl.srl-inc.co.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別研究協力者) 平成22年度

HIV即日検査協カクリニック

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
赤枝 恒雄	赤枝六本木診療所	院長	106-0046	港区元麻布3-1-30	03-3405-1388	03-3403-4680	spin-dr@fc4.so-net.ne.jp
新井 律夫	新井医院	院長	330-0062	さいたま市浦和区仲町 2-15-12	048-822-2030	048-822-8457	
井戸田 一朗	しらかば診療所	院長	162-0065	新宿区住吉町8-28 B-STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	info@shirakaba-clinic.jp
岩澤 晶彦	岩澤クリニック	院長	060-0061	札幌市中央区南1条西16丁目 レーベンビル2F	011-613-6000	011-613-3000	iwasawa@mb.snowman.ne.jp
上村 哲	上村病院	院長	904-0021	沖縄市胡屋1-6-2	098-938-1035	098-939-4206	utetu@mocha.ocn.ne.jp
江畑 貴文	文化村通りクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-25-10 小田原屋ビル4F	03-5459-4070	03-3780-7702	info@bunkamura.org
大里 和久	大里クリニック	院長	563-0027	池田市上池田1-8-13	072-753-2553	072-753-2553	docosato@hotmail.com
大原 宏樹	新宿山の手クリニック	院長	160-0021	新宿区歌舞伎町2-45-1 第5ライオンビル5F	0120-156-119	03-5291-1578	info@y-cn.jp
尾関 全彦	尾関皮膚泌尿器科	院長	135-0048	江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3F	03-3630-1241	03-3630-1241	
尾上 泰彦	宮本町中央診療所	院長	210-0004	川崎市川崎区宮本町4-1	044-211-6581	044-211-1972	onoye@dd.ij4u.or.jp
上村 茂仁	ウィメンズクリニック・かみむら	院長	700-0901	岡山市本町4-18 コア本町ビル3F	086-803-5338	086-803-5339	RXND4713@nifty.com
川嶋 敏文	川嶋泌尿器・皮膚科医院	院長	231-0024	横浜市中区吉浜町2-4 アックス(Axis)元町 2F	045-662-1971		
清滝 修二	セントラルクリニック伊勢崎	院長	372-0023	群馬県伊勢崎市粕川町1050-1	0270-30-8113	0270-30-8116	
小林 米幸	小林国際クリニック	院長	242-0005	大和市西鶴間3-5-6-110	046-263-1380	046-263-0919	uii37324@nifty.com
鷺山 和幸	さぎやま泌尿器クリニック	院長	810-0001	福岡市中央区天神1丁目3-38 天神121ビル3F	092-720-3077	092-720-3078	uro@sagiyama.net
白川 裕一	八重洲山の手クリニック	院長	103-0027	中央区日本橋3-4-12 フロントエア八重洲ビル4F	0120-156-119	03-5205-3688	yaesu@y-cn.jp
立山 啓悦	ひろクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-28-3 クラストビル4F	03-5458-1860	03-5458-1860	hiro196779@yahoo.co.jp

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
谷口 恭	太融寺町谷口医院	院長	530-0051	大阪市北区太融寺町4-20 すてらめいとビル4F	06-4792-7877	06-6364-4188	cyc02414@nifty.com
多和田俊保	たわだ泌尿器科	院長	460-0011	名古屋市中区大須3丁目14-43 大須第2アメ横ビル3F	052-238-3555	052-238-3536	urotawada35@lime.ocn.ne.jp
中村 幸生	中村クリニック	院長	553-0003	大阪市福島区福島7-6-23-303 日の出ビル	06-6455-8755	06-6455-8755	email@nyukio.chicappa.jp
西大條文一	丹羽クリニック	非常勤医師	169-0074	新宿区北新宿1-8-1 中島ビル 2F	03-3368-7589	03-3368-7455	info@dojinsai.com
西原 仁	関内マリンクリニック	院長	231-0017	横浜市中区港町2-9-4 関内幸和ビル9F	045-222-6162	045-222-6225	info@kannai-marine.com
根岸 昌功	ねぎし内科診療所	院長	160-0004	新宿区四谷3-9 光明堂ビル5F	03-5369-2041	03-5359-2041	mneg2885@over.ocn.ne.jp
古林 敬一	そねざき古林診療所	院長	530-0057	大阪市北区曽根崎2-5-24 石見ビル3F	06-6312-8423	06-6355-4822	k.furubayashi@sonezaki-fc.jp
保科 真二	保科医院	院長	604-8032	京都市中京区西木屋町六角 下ガール山崎町258	075-221-4775	075-221-4787	info@hoshina-iin.com
山口 眞澄	池袋山の手クリニック	院長	170-0013	豊島区東池袋1-32-2 小川ビル4F	0120-156-119	03-3986-2977	ikebukuro@y-cn.jp
山中 晃	新宿東口クリニック	院長	160-0022	新宿区新宿3-17-5 カワセビル7F	03-5366-3389	03-5366-3398	kouy@ff.ij4u.or.jp
吉尾 弘	吉尾医院	院長	064-0808	札幌市中央区南8条西3丁目1-7	011-511-5564	011-513-1782	

平成 22 年度 研究 報告 書

目 次

I. 総括研究報告

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究	1
------------------------------	---

—総括研究報告(平成22年度)—

加藤 真吾 (慶應義塾大学)

II. 分担研究報告

1. HIV検査相談に関する全国保健所アンケート調査(H22年)	19
--	----

今井 光信 他 (田園調布学園大学)

2. 検査相談 研修ガイドラインの作成と普及について

ガイドラインの検証と講師用実施マニュアルの作成について	57
-----------------------------------	----

矢永 由里子 他 ((財)エイズ予防財団)

3. 民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究	65
--	----

井戸田 一朗 (しらかば診療所)

4. 特設検査相談施設(南新宿検査相談室)における受検者、HIV 陽性者の動向	67
---	----

小島 弘敬 他 (東京都南新宿検査・相談室)

5. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査	74
須藤 弘二 他 (慶應義塾大学)	
6. 未承認 HIV 自己検査キット購入者に対する追跡調査	83
木村 和子 他 (金沢大学大学院)	
7. 我が国の HIV 検査体制・検査相談に資する国内外の疫学的・分子疫学情報の収集と その分析	105
武部 豊 他 (国立感染症研究所)	
8. ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査相談機関の情報提供 および利用状況解析	107
佐野 (嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)	
9. 民間クリニックへの HIV 即日検査の導入支援および実施状況解析	119
佐野 (嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)	
10. HIV 検査に対する態度と性感染症の知識に関する研究	124
玉城 英彦 他 (北海道大学大学院)	
11. 献血者への働きかけにより感染リスク行動のある献血者を HIV 検査相談機会に繋げる ための研究(平成 22 年度)	134
日野 学 他 (日本赤十字社)	
12. 歯科受診者に対する検査相談機会の検討	139
前田 憲昭 他 (医療法人社団皓歯会)	
13. パートナー健診の検討	142
中瀬 克己 他 (岡山市保健所)	

14. 北海道における HIV の現況と検査相談体制	179
長野 秀樹 他 (北海道立衛生研究所)	
15. 東京都の HIV 検査体制と 2010 年検査結果の解析	186
貞升 健志 他 (東京都健康安全研究センター)	
16. 大阪府内の公的 HIV 検査の現状と当所における HIV 陽性検体の解析、 STI 関連診療所における疫学調査、公的 HIV 検査の有効性を測る指標の検討	193
川畑 拓也 他 (大阪府立公衆衛生研究所)	
17. 福岡県における HIV 検査について	204
千々和 勝己 他 (福岡県保健環境研究所)	
18. 汎用リアルタイム PCR 装置を用いた HIV-1RNA 定量法 (KK-TaqMan) の地方衛生研究所 への技術支援と KK-TaqMan 増幅領域における変異のモニタリング	210
近藤 真規子 他 (神奈川県衛生研究所)	
19. 薬剤耐性変異の解析法の開発・改良・技術研修に関する研究： 薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管	219
杉浦 互 他 (国立病院機構名古屋医療センター)	

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表	227
-----------------------------	------------

I . 総括研究報告

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究

総括研究報告

研究代表者	加藤真吾	慶應義塾大学医学部
分担研究者	今井光信	田園調布大学人間福祉学部
	武部 豊	国立感染症研究所ウイルス部
	中瀬克己	岡山市保健所
	長野秀樹	北海道立衛生研究所
	貞升健志	東京都健康安全研究センター
	川畑拓也	大阪府立公衆衛生研究所
	小島弘敬	東京都南新宿検査・相談室
	日野 学	日本赤十字社血液事業本部
	前田憲昭	医療法人社団皓歯会
	玉城英彦	北海道大学大学院医学研究科国際保健医学
	木村和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系
	矢永由里子	エイズ予防財団
	佐野貴子	神奈川県衛生研究所
	近藤真規子	神奈川県衛生研究所
	井戸田一朗	しらかば診療所
	杉浦 互	国立病院機構名古屋医療センター

研究要旨

本研究班は、HIV 検査相談体制を充実させ、その機会を活用することにより、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・まん延防止を図ることを目的に、(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究、(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究、(3) HIV 検査技術の向上に関する研究の3課題について研究を行った。

(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究

①保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、その充実を計るため、全国の保健所等検査相談施設を対象にアンケート調査を実施した。

②各地域における HIV 検査相談の取り組み

北海道、東京、大阪、福岡における HIV 検査相談の取り組みをまとめた。

③東京都南新宿検査・相談室における HIV/STD 検査相談

東京都南新宿検査・相談室における受検者と HIV 陽性者の動向を調査した。

④HIV 検査相談の研修について

検査相談の質の向上のため、相談担当者の人材育成を目的とした研修ガイドライン

の策定と研修の質を確保するための講師用研修実施マニュアルの作成を進めた。

⑤民間クリニックにおける HIV 即日検査

民間クリニックへの HIV 即日検査の導入支援を行うとともに、実施施設における検査数・陽性数等の動向を調査した。

⑥HIV 自己検査キット

インターネット上で実施するグループインタビューにより、自己検査キット使用後の他検査受検について調査した。

⑦HIV 郵送検査

郵送検査会社に対し取扱状況や検査実施状況に関するアンケート調査を行った。また、スクリーニング陽性検体を再検査することにより検査精度を調査した。

⑧国内外における MSM 間での HIV 流行

我が国と近隣アジア諸国における MSM 間の感染拡大の疫学的・分子疫学的特徴に関する比較分析を進めた。

(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究

①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の活用

昨年度に実施した PC 版サイトおよび携帯版サイトのリニューアル（2009 年 10 月）に伴い、掲載方法および掲載内容の改良・充実を図った。

②STI クリニックにおける HIV 検査相談機会の提供

STI クリニックにおける HIV 検査相談の実施状況及びそれを提供する上での障壁とインセンティブを調査した。

③献血者への働きかけ

2010 年の献血者における HIV 抗体関連検査陽性献血者の動向等についてまとめた。

④歯科受診者に対する検査相談機会の提供

歯科医療従者と歯科医療機関受診者に、歯科受診と HIV 感染症に深い繋がりのあることを、広く認知していただく活動に取り組んだ。

⑤パートナー健診

我が国におけるパートナー健診の意義と課題について検討した。

(3) HIV 検査技術の向上に関する研究

①独自 HIV RNA 測定法の開発と普及

研究班が開発した HIV-1 RNA 測定法を全国各地の地方衛生研究所に普及と技術移管を行った。また市販のコバス TaqMan HIV-1 RNA 測定法に低反応性を示す検体の検索を行った。

②HIV 検査技術の研修

地方衛生研究所等の HIV-1 検査担当者を対象に技術研修会を 3 日間の日程で開催した。

A. 研究目的

本研究班は、HIV 検査相談体制を充実させ、その機会を活用することにより、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・まん延防止を図ることを目的に、(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究、(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究、(3) HIV 検査技術の向上に関する研究の 3 課

題について研究を行った。

B. 研究成果

(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究

①保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

保健所等における HIV 検査相談体制の実状

を把握し、その充実を計るため、全国の保健所等検査相談施設を対象にアンケート調査を実施した。本年度は、前年度の新型インフルエンザの流行が HIV 検査相談体制や受検者数に与えた影響についても調査した。対象とした保健所及びその支所等の 586 施設のうち回答があったのは 488 施設 (83%) であった。89,997 件の HIV 検査が実施され、241 件 (0.27%) が陽性で、そのうち 214 件 (89%) が保健所に再来所して結果を受け取っており、そのうちの 176 件 (73%) はその後医療機関に受診していることが確認されていた。感染症法に基づく届出は、191 件が自施設から行われていた。即日検査は 308 施設 (63%) と昨年よりやや増加し、夜間検査は 170 施設 (32%)、土日検査が 65 施設 (13%) といずれも昨年より僅かに増加していた。保健所以外の特設検査相談施設では、対象とした 19 施設すべてから回答が得られた。検査件数は 22,894 件で陽性件数は 163 (0.71%) であった。このうち結果が本人に伝えられたのは 158 件 (97%)、その後医療機関に受診したことを確認できた件数は 129 件 (79%) であった。新型インフルエンザの影響に関しては、HIV 検査相談事業の一部中止などの直接の影響があったとの回答は 13 件 (3%) のみであった。エイズ動向委員会の速報値では、エイズ発症者の比率は 30% と依然高い状況にあり、保健所等の HIV 検査相談に求められている役割は依然大きなものであり、受検者数の増加と検査相談の質の向上に向けてさらなる努力が必要と思われる。(分担研究報告「HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H22 年)」今井光信、他)

②各地域における HIV 検査相談の取り組み
北海道における新規 HIV 感染者・エイズ患者は 2009 年の 34 名から 2010 年の 21 名に減少した。そのうちエイズ患者は 10 名から 5 名に減少した。2010 年のエイズ患者の割合は 24% で、昨年を引き続いて低かった。感染経路

別では同性間性的接触が 13 名 (62%) で、年齢構成別では 30 歳代が多く 10 名 (48%) であった。北海道立保健所での年間受検者数は 2008 年をピークとしてその後減少傾向にあり、2010 年は前年比 34% 減であった。2010 年に道立保健所の無料匿名検査で陽性が判明したのは 2 名であった。(分担研究報告「北海道における HIV の現況と検査相談体制」長野秀樹、他)

東京都においても過去 3 年の HIV 検査件数は 2008 年 15,300 件、2009 年 14,340 件、2010 年 12,860 件と減少している。一方、陽性者数は 2008 年 175 件、2009 年 145 件、2010 年 168 件と推移しており、2010 年の陽性率は 1.31% と 2008 年、2009 年よりも高い傾向にあった。月毎の検査数の推移をみると、2010 年 8 月以降増加に転じており、特に女性層で増加傾向が強いことが示唆された。(分担研究報告「東京都の HIV 検査体制と 2010 年検査結果の解析」貞升健志、他)

2010 年に大阪府内の保健所等公的検査機関で HIV 検査を受検した人数は 14,528 名で、2009 年の 18,388 名に比べ 21.0%、2008 年の 21,229 名に比べると 31.6% も減少した。来年度より大阪府の 4 保健所において実施することが計画されている HIV 即日検査を支援するため、保健所検査担当者に対し研修と精度管理を行った。一方、繁華街に隣接した STI 関連診療所における HIV 検査では、594 件の検査のうち HIV 陽性例は 18 例で、そのうち NAT によって陽性が確認されたのが 2 例であった。また、発生動向届出数に占める無料匿名 HIV 検査陽性件数の割合が、都道府県における公的 HIV 検査が有効に機能しているかどうかを示す指標となりうるか検討した。(分担研究報告「大阪府内の公的 HIV 検査の現状と当所における HIV 陽性検体の解析、STI 関連診療所における疫学調査、公的 HIV 検査の有効性を測る指標の検討」川畑拓也、他)

福岡県内では、HIV 感染者・患者報告数が

2009年に大きく増加に転じた。県内保健所、及び民間クリニックでの検査状況について解析した結果、本県においては男性同性間性的接触を原因とするHIV感染が引き続き拡大していることが示唆された。(分担研究報告「福岡県におけるHIV検査について」千々和勝己、他)

③東京都南新宿検査・相談室におけるHIV/STD検査相談

東京都南新宿のHIV陽性者数は2007年が134人と開設以来の最高値であったが、その後減少傾向が続いている。南新宿の受検者の最近の動向として、①感染初期の陽性者の増加、②パートナー告知による受検者の増加、③STD罹患率の低下などがみられ、高リスク集団におけるセーフターセックスへの行動変容が認められる。陽性者数の今後の推移が注目される。南新宿ではMSM群の陽性率は5%と他の群に比べて著しく高い。陽性者を効率的に診断するためにはMSMの受検者を増やす工夫が必要と考える。(分担研究報告「特設検査相談施設(南新宿検査相談室)における受検者、HIV陽性者の動向」小島弘敬、他)

④HIV検査相談の研修について

検査相談の質の向上のため、相談担当者の人材育成を目的とした研修ガイドラインの策定と研修の質を確保するための講師用研修実施マニュアルの作成を進めた。研修ガイドラインに関しては、特に基礎編の部分について、実際の研修の中で内容の妥当性を検証した。講師用実施マニュアルに関しては、グループワークについてファシリテーターや協力スタッフの役割や動き、事例などを具体的に記載したものを作成し、検証を重ねた。(分担研究報告「検査相談 研修ガイドラインの作成と普及について—ガイドラインの検証と講師用実施マニュアルの作成について」矢永由里子、他)

⑤民間クリニックにおける即日HIV検査 HIV検査希望者にとって利便性が高い検査

相談体制の一つである「即日検査」について、民間クリニックへの導入支援を行うとともに、実施施設における検査数・陽性数等の動向を調査した。本年度は4ヶ所の新規導入があり、実施施設は合計28ヶ所であった。2010年の民間クリニックでの検査数は17,358件であり、最も件数が多かった2008年と比較して22%減となった。一方、陽性数は108件(陽性率0.62%)と過去最高となった。陽性例108例中101例(94%)が確認検査結果を受け取りに来ており、このうち47例は自施設で経過観察、45例は紹介先拠点病院への受診が確認された。保健所への届出は、95例(88%)が自施設より、11例が紹介病院に依頼していた。民間クリニックは有料であるにも関わらず、医療機関という安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、多くの検査希望者が即日検査を受検している。また、STIクリニックは他の性感染症の罹患者が多く来院することから、HIVの早期発見・早期治療に繋げるには、民間クリニックでの即日検査の実施は非常に効果的であると思われる。今後もSTIクリニックへの即日検査の導入を積極的に行っていきたいと考える。(分担研究報告「HIV検査機関における即日検査の実施動向の解析」佐野貴子、他)

⑥HIV自己検査キット

本邦未承認のHIV自己検査キット利用者の背景と理由を明らかにし、HIV自己検査より安全で、適切な検査へ誘導するための有効策を見つけ出すことを目的に、インターネットを利用した横断的アンケート調査を実施した。20歳以上の登録会員に調査の告知メールを送信し、調査に同意した会員がインターネット上で回答した。95,000人にスクリーニングを行った結果、『自己検査キット購入者』は101人(0.1%)であった。『自己検査キット購入者』の特性としては、20代、高リスク、HIV感染の知識不足、自己検査キットの問題点(偽造品・不良品等)に関する認識不足が認めら

れた。また、陽性結果に対する不十分なカウンセリング体制などの問題が明らかとなった。本研究より、HIV 自己検査キット購入者の特性を加味した情報提供・教育を通じて、安易な HIV 自己検査キット購入を減らす対策が重要であることがわかった。(分担研究報告「未承認 HIV 自己検査キット購入者に対する追跡調査」木村和子、他)

昨年度実施した「未承認 HIV 自己検査キットの消費者実態調査」の追跡調査としてグループインタビューによる横断調査を行った。その結果、ウインドウ期と確認試験必要性の認識に乏しく、自己キット使用後に他検査受検を受けていなかった。また、自己キットの秘匿性がこの検査を選択する最も大きな要因であることが示唆された。これらのことから、保健所等での検査について正しい情報の積極的広報と、秘匿性の確保が重要であると考えられた。将来、信頼性の高い自己キットが出て適切に使用される環境が整備されれば、HIV 検査の普及が促進されるのではないかと思われる。

⑦HIV 郵送検査

インターネット等で利用可能な HIV 郵送検査の現状を把握するため、郵送検査会社 9 社に対し取扱状況や検査実施状況に関するアンケート調査を行った。またスクリーニング陽性検体の再検査を行うことにより、郵送検査の検査精度調査を行った。年間検査数の合計は 60,609 件(昨年比 11%増)で、スクリーニング検査陽性数は 223 例(昨年比 16%増)であった。HIV 検査の受検費用は 2,625~7,950 円、検査にかかる日数は 1~14 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものを用いており、PA 法、イムノクロマト法、CLEIA 法、EIA 法の臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて E-mail やネットでの通知が選択できる会社が多かった。検査結果が陽性だった場合、ほとんどの検査会社で病院または保健所

での検査を勧めていた。郵送検査におけるスクリーニング検査陽性検体 34 例を PA 法と WB 法で再検査した結果、陽性 30 例、陰性 4 例であった。以前の結果も合わせると、郵送検査の陽性的中率は 82%であった。HIV 郵送検査は我が国の自発検査において大きな部分を占めており、今後も実態調査と検査精度調査を継続することが重要であると考えられる。(分担研究報告「HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査」須藤弘二、他)

⑧国内外における MSM 間での HIV 流行

我が国と近隣アジア諸国における MSM 間の感染拡大の疫学的・分子疫学的特徴に関する比較分析を進めた。MSM におけるエイズ再興・新興流行は、2005 年前後以来、世界的な潮流となっている。アジアにおいても、タイ・ミャンマーを中心に 30%に及ぶ感染率が観察される。我が国における感染率は 4%前後と推定され、B 株が 97%以上を占める。アジア地域の MSM におけるサブタイプ分布は、多くの場合、地域流行に大きく影響を受けていることから、我が国を含む欧米先進国におけるサブタイプ B の圧倒的な優位性は、生物学的な要因によるのではなく、ファウンダー効果によるものと考えられる。(分担研究報告「我が国の検査体制・検査相談に資する国内外の疫学的・分子疫学情報の収集とその分析」武部豊)

(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究

①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の活用

当研究班では、保健所等検査機関における HIV 検査情報の提供や HIV 検査に関する知識の普及を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」を作成し、管理・運営を行っている。本年度は、昨年度に実施した PC 版サイトおよび携帯版サイトのリニューアル(2009 年 10 月)に伴い、掲載方法および掲載内容の改良・充実を図った。PC 版サイトの 2009 年の年間アクセス数は 61 万件と、前年比 3%減

となった。サイト開設以来、最もアクセス数の多かった 2008 年と比較すると 29%減となった。減少の要因としては、新型インフルエンザ流行による HIV/エイズ情報への関心の低下、リニューアルのための一定期間の情報更新の停止等による影響等が考えられた。例年であればエイズ動向委員会や世界エイズデー付近ではアクセス数が増加していたが、本年も 2009 年に引き続き顕著な増加はみられなかった。HIV/エイズ報道の減少、受け取り側の HIV/エイズ報道への関心の低下が原因と思われた。携帯版サイトはリニューアル後、アクセス解析システムの変更によりトップページアクセス数の集計が出来ない状況にあったが、システム改良により 2010 年 6 月より再び可能となった。携帯版サイトページの閲覧数で最も多かったのは「HIV 検査 Q&A」ページであったことから、HIV 検査に関する知識を得るために本サイトを閲覧している人も多いと思われた。携帯端末は誰でも手軽に利用が可能であり、若年者を中心としたユーザの増加も伺えることから、携帯版サイトの掲載内容を充実するとともに、アクセス数の動向を注視していきたいと考える。(分担研究報告「ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査相談機関の情報提供および利用状況解析」佐野貴子、他)

②民間クリニックにおける HIV 検査相談機会の提供

民間クリニックにおける HIV 検査相談では、既存のサービスが提供できなかった場所や時間帯での検査相談の提供や、性感染症の合併等を含む感染リスクのある個人や集団への検査相談の提供が可能である。STI 診療を行う民間クリニック 6 施設に対し、HIV 検査相談実施状況及び提供する上での障壁について調査をし、3 施設において HIV 即日検査が導入された。民間クリニックの実情に応じた、質の高い HIV 即日検査の導入実施を支援するガイドランスを作成する準備を行っている。(分

担研究報告「民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究」井戸田 一朗、他)

③献血者への働きかけ

日本赤十字社では 2008 年に感染症検査の精度および感度の向上のために、血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法へ、また HBV、HCV および HIV のミニプール核酸増幅検査については、HIV-1 に加えて HIV-2 も検出可能とするとともに精度・感度を向上させた試薬を導入している。献血者 10 万人当りの HIV 陽性率については、2008 年の 2.107 (107 件)をピークに 2009 年は 1.929(102 件)、2010 年は 1.617 (86 件)と全体的には減少傾向となった。地域ブロック別でみると、東京ブロック (2.076) 及び大阪ブロック (2.509) は依然として高い比率であった。愛知ブロックは前年の 1.260 から 0.501 に激減した。HIV の検査目的での献血におけるマグネット効果を減じるためには、HIV 検査希望者にとって利便性の高い受入れ検査・相談施設の設置、迅速検査を主体とする体制を整備することが重要である。依然として高い陽性率がみられた東京都および大阪府の大都市では、検査・相談施設の更なる充実が必要と考えられる。

(分担研究報告「献血者への働きかけにより感染リスク行動のある献血者を HIV 検査相談機会に繋げるための研究 (平成 22 年度)」日野 学、他)

④歯科受診者に対する検査相談機会の提供

口腔症状が HIV 感染の発見の端緒となる症例が毎年報告される。また発見に至るまでの期間に、口腔に異常を感じて医療機関を受診する患者も確認されている。歯科医療従事者に口腔症状から HIV 感染を鑑別診断の 1 つとして思い浮かぶ環境の開発と、適切に検査機関への導入を行えるガイドラインの作成を行った。具体的には歯科医師向けと、待合室での患者さん向けのポスターを作成し、口腔症状と HIV が親密な関係にあることをさり気無

く意識の中に取り込める活動を行った。(分担研究報告「歯科受診者に対する検査相談機会の検討」前田憲昭、他)

⑤ パートナー健診

HIV 感染症診療の場および公設 HIV 検査・相談所における HIV 検査陽性者および患者を発端としたパートナー健診(検査等健康管理への働きかけ)のわが国における意義と課題について検討を行った。保健所等を対象にアンケート調査を行った結果、HIV 陽性例のあった保健所の 75%、公設 HIV 検査所の 67%で受検者へのパートナー検査勧奨が行われていた(あるいはその予定)。陽性者への説明項目についてガイドラインを持つ保健所は 55%であった。対応を安定化させ、実施内容を改善するためにはガイドライン等が必要であると思われる。日本性感染症学会による性感染症検査治療ガイドライン 2011 版作成に際し、患者パートナーへの検査/治療勧奨に関する項目追加の検討を提案した。(分担研究報告「パートナー健診の検討」中瀬克己、他)

(3) HIV 検査技術の向上に関する研究

① 独自 HIV RNA 測定法の開発

血中 HIV-1 RNA 測定は保健所等の無料匿名検査での確認検査においても重要な検査の一つである。確認検査の多くは地方衛生研究所で行われているが、HIV-1RNA 測定キットがリアルタイム PCR を原理とするコバス TaqMan 法へ切り替わったことに伴い、高価な専用機器の購入が必要になり、全国の地方衛生研究所での実施が困難になった。そのため、本研究班では汎用リアルタイム装置を用いた in house の HIV-1RNA 測定法(以下、KK-TaqMan)を開発した。本年度は、保健所等での無料匿名 HIV 検査における確認検査をサポートするため、以下の地方衛生研究所を対象に KK-TaqMan の普及と技術移管を完了した: 東京都安全健康センター、大阪府立公衆衛生研究所、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、埼玉県衛生研究所、

福岡県保健環境研究所、北海道立衛生研究所、福島県衛生研究所、鹿児島県環境保健センター、大分県衛生環境研究センター。

一方、市販のコバス TaqMan ではプライマーやプローブ領域の変異による低反応性検体が昨年我々が発見した症例以外にも報告されているが、詳細は明らかでない。そこで、HIV-1 陽性 186 症例を用いて KK-TaqMan、コバス TaqMan 増幅領域の遺伝子変異を調べ、測定値の信頼性について解析した。その結果、KK-TaqMan の下流プライマーと比べ 3' 末端から 3 番塩基の A から C への変異が 2 例認められ、これらはコバス TaqMan に低反応性を示したが、KK-TaqMan の測定値に影響は認められなかった。(分担研究報告「汎用リアルタイム PCR 装置を用いた HIV-1RNA 定量法(KK-TaqMan)の地方衛生研究所への技術支援と KK-TaqMan 増幅領域における変異のモニタリング」近藤真規子、他)

② HIV 検査技術の研修

全国の衛生研究所等において HIV-1 検査を担当する技術者を対象に、技術研修会を平成 22 年 9 月 15 日~17 日の日程で名古屋医療センター講義室・実習室において開催した。この研修会では、名古屋医療センターで実施している HIV 薬剤耐性検査の技術について技術移管を行うことを目的とし、さらに内外より講師を招待して HIV-1 の薬剤耐性検査に関する基礎知識から臨床的意義について講義も行った。(分担研究報告「薬剤耐性変異の解析法の開発・改良・技術研修に関する研究: 薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管」杉浦 互、他)

C. 考察

保健所等における受検者数は平成 20 年の 17.7 万人をピークに、平成 21 年 15.0 万人、平成 22 年 13.1 万人と大きく減少している。新型インフルエンザの流行を契機に HIV/エイズに関する報道の減少や社会的関心が低下

していることが最も大きな原因と考えられる。AC、マスコミ、政府や自治体の広報等を使ったHIV検査相談の普及・啓発活動の強化が今後一層必要であると思われる。ただし、他の性感染症の検査や即日検査を導入している保健所では受検者数が回復する傾向がある。また、特設検査施設における陽性判明者の数・率は増加傾向にある。感染リスクの高い集団に対して重点的に利便性の高い検査相談機会を提供することが重要である。

HIV 検査相談の利便性の向上に関しては、即日検査を実施している保健所の比率が 63%とこの数年間ほぼ同じで、即日検査の導入も普及が進み定着する一方、通常検査と即日検査の共存状態がほぼ平衡に達しているものと思われる。また、通常検査のみを実施している保健所(37%)においても、夜間、土日検査等受検者に利便性の高い時間帯の検査を実施している保健所が 13%あり、平日昼間の通常検査を実施している保健所は全体の 26%のみであった。しかしながら、即日検査の導入に関しては地域的な偏りもみられ、また、エイズ動向委員会の発表している速報値では、平成 22 年の新規の HIV 感染者報告数が 1,503、新規エイズ患者数 420 で新規報告総数に占める新規エイズ患者数の比率は 30%と依然高い状況にあるなど、保健所等の HIV 検査相談に求められている役割は極めて大きなものがあり、受検者増と検査相談の質の向上に向けてのさらなる努力が必要である。

大都市圏を中心とした、当研究班の協力民間クリニック 28ヶ所での匿名有料の HIV 検査に関しては、平成 22 年の検査数は 17,358 件で、最も件数が多かった 2008 年と比較して 22%減であったが、陽性数は 108 件(陽性率 0.62%)と過去最高となった。高リスク集団に対して HIV 検査相談機会を提供する重要な役割を果たしている。民間クリニックでの検査は、陽性判明者に対して自院あるいは専門医療機関への紹介によりほぼ確実に医療を提

供できるという特質がある。今後、実施施設のさらなる拡大を図ることが重要であると考ええる。

郵送検査の利用者数は年々増加が続いており、平成 22 年の検査数は 60,609 件、スクリーニング検査陽性数は 223 件であった。その受検者数は保健所等での検査数の 46%に相当している。郵送検査はインターネットを通じて申し込みと結果通知が可能であるため、匿名性を重視する検査希望者の受け皿になっている。一方、郵送検査で行っているのはスクリーニング検査のみであり、陽性と判定された者は保健所等や医療機関で必ず確認検査を受ける必要がある。また、郵送検査の陽性者に対して相談、情報提供、精神的ケアをどのように行うかという問題も残されている。郵送検査に関するガイドライン等の作成が必要であると考ええる。

国外においては、唾液を用いた診断薬や、穿刺血を用いて 1 分で結果が得られる診断薬など、利便性の高い検査法が次々と認可されている。特に、唾液を用いた診断薬は侵襲性が低く、安全性が高いことから、個別施策層を対象としたアウトリーチでの検査手段として適していると考えられる。このような新規診断法が速やかに国内でも使用可能となることが望まれる。

保健所や医療機関において陽性者の性的パートナーに対して HIV 検査推奨が実際に広く行われているが、そのための指針作りが進んでいない。性的パートナーに対する HIV 検査推奨や感染告知には、感染者のプライバシー保護や自己決定権の尊重などの人権に抵触する問題を引き起こす恐れがある。性的パートナーに対する検査推奨を実施するにあたっては、感染者の精神状態や生活環境を十分に配慮し、十分な説明と同意を得ることが必要であると考ええる。

HIV 感染者の過半数は医療機関において診断されている。このような医師主導型 HIV 検